



▲登別マリパークニクス開園25周年を記念し、登別市を訪れたファボー・ミッドフュン登別友好協会の会員（2015年7月）



▲北海道明日中等教育学校の生徒と交流するスヴェイネ大使

つながりが 生んだ出会い

会）が設立され、登別市内では『のぼりべつ国際交流会』や1996年に設立された『登別デンマーク協会』により、互いに青年研修員などを定期的に受け入れるなど、市民による積極的な交流が行われてきました。

自治体間では、登別市とリンゲ市、ウイスリンゲ市との3市で1997年には『友好の絆』を取り交わし、2007年にはリンゲ市とウイスリンゲ市が近隣市町と合併して誕生したファボー・ミッドフュン市と『友好都市協定』を締結。市民による活動を自治体も積極的に支援しています。

デンマーク王国と登別市との交流は、今年で29年目を迎え、親からその子どもたちへと交流が受け継がれています。

3月に、幼保一元化施設『コロポックルの森』の子どもたちに、ピアノ演奏を披露してくれたデンマーク王国の音楽家ポール・バルスレウさんもその一人です。登別マリパークニクスの開園時に訪れた高校生合唱団の一人でもあったポールさんは、2010年にも子どもたちと共に登別市を再訪し、2世代にわたる市民との交流を行っています。



▲ポールさんによるピアノコンサート

『ホストタウン・登別市』

『ホストタウン』は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたり、大会参加選手や参加国の関係者など人的・経済的・文化的な相互交流を図るとともに、地域の活性化などの推進を目的とした国の取り組みです。

市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に大会参加選手など多くの市民が交流すること、さらなる国際交流の推進を図るとともに、子どもたちが大会参加者から直接スポーツの素晴らしさを学ぶことで、「将来オリンピックに出場したい」といった夢や希望をもつきっかけとするため、これまで交流を重ねてきた友好都市ファボー・ミッドフュン市のある『デンマーク王国』を相手国としたホストタウンの登録を目指しました。

市は、これまでの交流を生かし、関係機関に協力をお願いするとともに、2017年10月には、駐日デンマーク王国大使館を訪問し、フレディ・スヴェイネ大使に協力を依頼。

長年にわたる交流の実績が認められ、同年12月11日、登別市はデンマーク王国のホストタウンに登録されました。

明日へのつながり

デンマーク王国と登別市のきずなは、多くの人の手によって育まれてきました。

このきずなによって、新たな出会い、そして、言語の違いを越えた温かな交流が生まれています。

交流は親から子へ、子からその子へと受け継がれ、人々の思いが架け橋となつてつながっています。

そして、4月26日(木)・27日(金)、ホストタウンの取り組みの一つとして、スヴェイネ大使が登別市を訪れ、市民の皆さんとの交流を行いました。この訪問も、ホストタウン登録への取り組みでできたつながりによって実現したものです。

今回のスヴェイネ大使との新たな出会いは、子どもたちにとって「もっと英語を学びたい」、「デンマーク王国についてもっと知りたい」といったきっかけとなったのではないのでしょうか。

市は、引き続き東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、デンマーク王国を応援し、登別市を訪れたデンマーク王国の皆さんとの交流の場を設ける予定です。

デンマーク王国をはじめ、さまざまな国・文化とふれあう機会として、ホストタウンの取り組みに加え、『国際理解講座』などを開催していますので、皆さんも身近な国際交流に参加してみませんか。 ※スヴェイネ大使については、9ページでも紹介しています。

▼問い合わせ

企画調整グループ

(☎051122)